

高知県初記録のトゲアシヒライソガニモドキの分布 (カニ下目モクズガニ科)

町田吉彦

The distribution of a brackish-water crab *Parapyxidognathus deianira* newly recorded from Kochi Prefecture, southern Japan (Brachyura: Varunidae)

MACHIDA Yoshihiko

Abstract The distribution of a varunid crab *Parapyxidognathus deianira* (De Man, 1888) designated as one of the data deficient species of Kochi Prefecture was studied from April 2004 to April 2006. A total of 67 specimens from seven localities suggest that this species is widely distributed on the coast of Tosa Bay from Aki River (33°29'N, 133°54'E) to Mina River (33°02'N, 133°03'E). The individuals were found under cobbles on muddy bottom in the tidal rivers. However, there were no localities in two enclosed coastal seas, Urado Estuary and Uranouchi Inlet, both on the middle coast of Tosa Bay.

Key words: brackish-water crab, Varunidae, *Parapyxidognathus deianira*, data deficient species, distribution, Tosa Bay, southern Japan.

モクズガニ科のトゲアシヒライソガニモドキ *Parapyxidognathus deianira* (De Man, 1888) は日本,台湾,中国,フィリピン,タイ,ミャンマー,インドネシアに分布する (Davie *et al.*, 2004). Davie *et al.* (2004) は野元ほか (1999) に基づき,日本の産地として和歌山県の紀ノ川のみを上げたがこれに先立ち,三宅 (1998) が本種を石垣島から,岸野ほか (2001) が奄美大島から報告している.その後,2005年に,本種は沖縄県の絶滅危惧Ⅱ類に指定された (<http://www3.pref.okinawa.jp/site/contents/attach/9962/koukakurui.pdf>).本種は高知県産汽水・淡水産十脚甲殻類のリストに含まれているが,県内の産地ならびに標本に関する報告がまったくないまま高知県の情報不足種に指定されている(高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会,2002).

著者が2003年4月から実施している高知県内の干潟ならびに感潮域の調査で,本種が土佐湾沿岸の各地に生息していることが明らかになった.上述のように,日本における本種の分布に関する情報がきわめて少ないことから,以下に報告する.

本報告は,2003年4月から2006年4月の間に,徳島県牟岐町の牟岐川から高知県の室戸岬および足摺岬を経て,愛媛県宇和島市の来村川に至る131地点で実施した結果に限定する.ただし,これらの地点には調査時に河口が閉塞していた河川も含まれ,地点ごとの調査回数はさまざまである.調査地点数は,徳島県が5地点,高知県が112地点,愛媛県が14地点である(図1).調査は感潮域で行い,標本は素手で採集した.産地のおよその緯度・経度はアルプス社の電子地図ソフト ProAtlasX version 2 で求めた.採集した標本は70%エ

チルアルコールで固定し、四国自然史科学研究センター甲殻類標本 (SINH-CR) として登録してある。本稿では甲幅を CW, 甲長を CL と略記する。

Parapyxidognathus deianira (De Man, 1888)

トゲアシヒライソガニモドキ

(Fig. 2)

調査標本 (67 個体) : SINH-CR 1674, ♂, CW 12.2mm, CL 9.4mm, 安芸市安芸川 (33°29'38"N, 133°54'54"E), 2004年9月2日; SINH-CR 2369, 2♂, CW 5.8-9.7mm, CL 4.8-7.5mm, 高知市仁淀川 (33°27'40"N, 133°29'28"E), 2005年3月26日; SINH-CR 2377, ♀, CW 8.5mm, CL 7.0mm, 須崎市新荘川 (33°22'56"N, 133°16'43"E), 2005年3月29日; SINH-CR 2379, ♂,

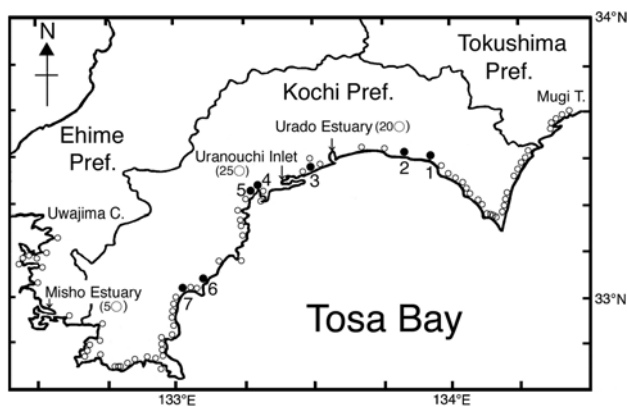


Fig. 1. A map showing sampling localities in this study. Solid circles indicate localities where specimens of *Parapyxidognathus deianira* were collected: 1-Aki River, 2-Akano River, 3-Niyodo River, 4-Sakura River, 5-Shinjyo River, 6-Iyoki River, 7-Mina River. Open circles indicate localities where no specimens of *P. deianira* were collected.



Fig. 2. *Parapyxidognathus deianira*, SINH-CR 3192, male, 11.5mm CW, from the Iyoki River in Kuroshio Town.

CW 10.0mm, CL 7.9mm, 新荘川, 2005年3月29日; SINH-CR 2380, ♀, CW 7.7mm, CL 6.0mm, 新荘川, 2005年3月29日; SINH-CR 2381, 19♂ + 3♀, CW 5.0-11.9mm, CL 3.6-9.4mm, 新荘川, 2005年3月29日; SINH-CR 2396, 2♀, CW 9.0-12.5mm, CL 6.6-9.5mm, 新荘川, 2005年3月31日; SINH-CR 2404, ♂, CW 8.6mm, CL 6.6mm, 須崎市桜川 (33°24'10"N, 133°18'01"E), 2005年3月31日; SINH-CR 2565, ♂, CW 9.9mm, CL 7.7mm, 桜川, 2005年4月24日; SINH-CR 2566, ♀, CW 11.0mm, CL 7.0mm, 桜川, 2005年4月24日; SINH-CR 2567, 5♂ + 3♀, CW 3.9-9.5mm, CL 3.1-7.3mm, 桜川, 2005年4月24日; SINH-CR 2899, ♂, CW 10.7mm, CL 8.2mm, 安芸市赤野川 (33°30'40"N, 133°50'16"E), 2005年5月24日; SINH-CR 2900, 3♂ + 3♀, CW 6.8-14.9mm, CL 5.0-12.0mm, 赤野川, 2005年5月24日; SINH-CR 3018, ♂, CW 7.6mm, CL 5.9mm, 黒潮町蜷川 (33°02'14"N, 133°03'50"E), 2005年5月24日; SINH-CR 3192, ♂, CW 11.5mm, CL 8.8mm, 黒潮町伊与木川 (33°04'25"N, 133°06'36"E), 2005年7月5日; SINH-CR 3193, ♂ + ♀, CW 7.6-8.5mm, CL 5.7-6.0mm, 伊与木川, 2005年7月5日; SINH-CR 3439, ♀, CW 8.2mm, CL 6.5mm, 仁淀川, 2005年9月15日; SINH-CR 3687, ♀, CW 11.6mm, CL 8.9mm, 仁淀川, 2006年3月18日; SINH-CR 3695, 3♂ + ♀, CW 8.3-13.5mm, CL 6.6-10.5mm, 仁淀川, 2006年3月19日; SINH-CR 3701, ♂ + ♀, CW 11.0-11.1mm, CL 8.6-8.9mm, 仁淀川, 2006年3月20日; SINH-CR 3721, 2♂ + 2♀, CW 8.2-9.9mm, CL 6.3-7.5mm, 仁淀川, 2006年4月14日; SINH-CR 3767, ♂, CW 13.9mm, CL 11.0mm, 仁淀川, 2006年2月18日; SINH-CR 3768, ♂, CW 13.8mm, CL 10.8mm, 仁淀川, 2006年2月18日; SINH-CR 3769, ♂, CW 12.3mm, CL 9.9mm, 仁淀川, 2006年2月18日。

記載：甲は前後にわずかに湾曲し、表面は平滑で、光沢がある。前側縁は眼後歯を含め鋭い3歯がある。鉗脚は不同であるが、強力で、平滑無毛。歩脚の前後縁に軟毛が列生し、長節の後縁に棘がある。

備考：本研究で、トゲアシヒライソガニモドキが土佐湾に直接流入する高知県の安芸川、赤野川、仁淀川、新荘川、桜川、伊与木川および蜷川で確

認められた。仁淀川河口では多くの個体が採集されたが、これらはいずれも左岸の仁淀川河口大橋の橋脚のわずかに上流にある人工護岸の基部から得られた。この護岸の周辺は湾処になっており、護岸の基部のすき間と縁辺部に泥が堆積し、こぶし大から人頭大の礫が散在している。標本はすべてこれらの礫の下から得られた。他の地点においても、標本は泥が堆積し、同様の礫が存在する場所で、礫の下から得られた。

本種は徳島県と愛媛県では確認されなかった。また、高知県の浦戸湾の20地点と浦ノ内湾の25地点では本種を確認することができなかった。本研究で確認された産地のうち須崎市の桜川と新荘川は須崎湾の奥部に流入するが、これら以外の河川は土佐湾に直接流入する。このことから、本種は外海に開口する河川の感潮域で、しかも泥と礫が同時に堆積している環境を好む傾向が強いと判断される。

岸野ほか(2001)は2000年に奄美大島で実施した河口部のカニ類の調査において、20地点中9地点で本種を確認し、奄美初記録種として報告した。本研究で確認された産地数は岸野ほか(2001)に次ぐ。岸野ほか(2001)は、地球温暖化の影響が奄美大島のカニ類相に反映されていることを示唆した。本研究で、本種が土佐湾沿岸の特定の河川の感潮域でほぼ周年に渡って確認されたことは岸野ほか(2001)の見解と同様である可能性がある。しかしながら、高知県内における本種に関する過去の報告が皆無であったことから、今後、底質を中心とする環境要因の分析とより詳細な分布の調査に基づき、高知県の感潮域におけるカニ類相と地球温暖化の関係を明らかにする必要がある。

謝 辞

本研究室在籍中に調査に積極的に協力していただいた山本藍子さんならびに学生諸君に厚く御礼申し上げます。また、2006年2月18日に仁淀川で採集された標本を寄贈していただいた建設環境株式会社の皆さまに感謝します。

引用文献

- Davie, P. J. F., D. Guinot and M. Türkay (Sakai, K., ed.). 2004. Crabs of Japan. Version 1.0. Biodiversity Center of ETI, World Biodiversity Database CD-ROM Series. UNESCO-Publishing, Paris.
- 岸野 底・野元彰人・木邑聡美・米沢俊彦・和田恵次. 2001. 奄美大島の汽水産カニ類. 南紀生物, 43: 125-131.
- 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会. 2002. 高知県レッドデータブック〔動物編〕. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470pp.
- 三宅貞祥. 1998. 原色日本大型甲殻類図鑑(Ⅱ), 3刷. 保育社, 大阪, vii + 277pp.
- 野元彰人・淀 真理・木邑聡美・岸野 底・酒野光世・和田恵次. 1999. 紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の6稀種. 南紀生物, 41: 5-9.

(原稿受理 2009年8月31日)